

イネ科通信 33

オオスズメノカタビラ

2014/05/15

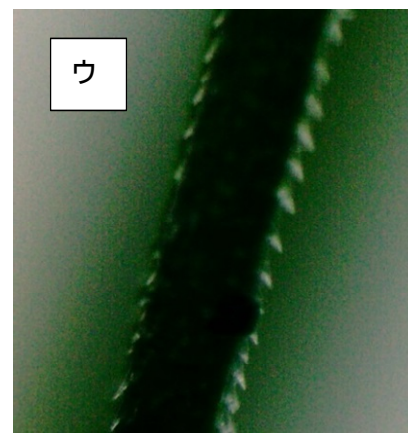
ヨ - ロッパからアジア原産の帰化植物で、北海道～九州の耕地の周辺や道路沿いの乾燥した荒地からやや湿った草地にも生える多年草です。匍匐茎をのばしてふえるので、イチゴツナギのように株立ちになりません。稈（茎）の高さ 40～100cm、葉身の長さ 10～20cm、幅 2～4mm。葉舌は 3～8mm、先がとがった白い半透明の膜質です。花序の枝の下部には下向きの小さな刺があります。小穂は長さ 2.8～3mm、2～3 小花からなります。小花の基部にある綴毛（てつもう）は長く、花期は 5～6 月です。



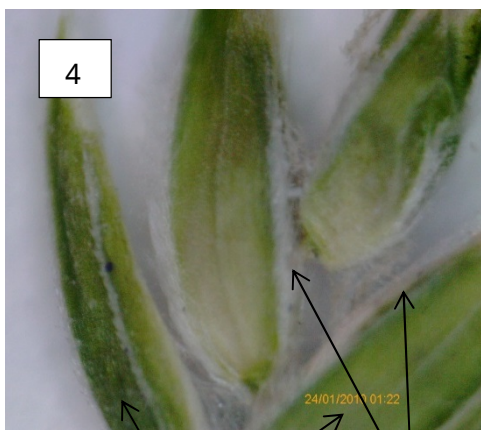
（ア）オオスズメノカタビラ（全体）



（イ）葉舌は尖る（膜状）



（ウ）花序の枝はざらつく



包穎

綴毛

写真1にはめしべの柱頭が見えています。

写真2にはおしべの薬とめしべの柱頭があります。

写真3の小穂はいずれも3小花より構成されています。

●小穂には2枚の包穎があり、オオスズメノカタビラではその上に2～3個の小花があります。

写真4

●包穎の上に2個の穎果（果実）とその下に長く白色の綴毛が見られます。これをみると綴毛は、包穎から穎果を分離する役割を担っているように思われます。

（注）イチゴツナギ（Poa）属には小花の基部に綴毛があります。